

東田小学校学校運営協議会令和4年（2022年）度  
2023年（令和5年）2月18日（土） 会長挨拶 22-RO-8

幼少時代の《原体験》、特に小学校時代の〈原体験〉こそがそれぞれ個人の人生において長期的に影響を与え続け、個人の個性、趣味や将来の職業の選択などに関係して来るものではないだろうか。この原体験を与える役割を小学校の教師は担っていることの重要性を認識したい。

私事で恐縮ですが、幼少時代の西田小学校5、6年の時、戦災にあった校舎舎の増築と校庭の拡張のため、隣接する農家の農地の畑が開墾された。その畑から続々と縄文土器が出土した。

当時は文化財保全などというような配慮もないので、学童は好き勝手に土器の発掘に夢中になって掘り出しては水道で洗い土器の破片をお宝にした。担任の教師の瀧澤正茂先生もそれは縄文土器であると説明され、学童の好きなようにして下さり、全くの放任であった。採集した土器の破片を水道水で洗うと縄文の模様と茶色の素焼きの土器の破片が極めて鮮烈に印象に残った。そして自分は数片をお宝にした。その後今では西田小学校には縄文遺跡の指定と出土の土器の展示がある。

その時の原体験のためか後に考古学の趣味に繋がった。杉並区には高井戸の旧石器時代の遺跡、大宮八幡の縄文遺跡、松の木 of 弥生時代の住居跡などと古代にかかわる史跡がある。また杉並区立郷土資料館では考古学的な展示もなされている。本物を現地で古代の歴史に接することは極めて子供にとっては鮮烈な印象を与えるものである。

小学校6年生の時の那須温泉での那須林間学校での体験で、那須茶臼岳の登山と夜空の星の観察は良き思い出となり、登山、ハイキング、遺跡巡りの趣味となり、永久の世界の天文についてもロマンを感じるようになった。

小学校教師の原体験の提供の機会が思いがけない世界への窓口を開くことになる。人間の人生の生き方などに深層心理的に大きな影響を与え続けるものであり、その任務は重大ともいえる。初等教育の重要性を再認識して国と地方公共団体は教育予算をさらに充実することこそ国の将来を明るくすることになるだろう。

以上

小原理一郎